

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	竹田光輝 (たけだこうき)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年 7 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 19 回日本うつ病学会総会第 5 回日本うつ病リワーク協会年次大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	竹田 光輝、田島 えみ、太田 美都、畑 琴音、鈴木 伸一
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	日本のうつ病休職者の早期復職および就労継続に関連する要因についてのシステマティックレビュー
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><b>【諸言・目的】</b></p> <p>うつ病休職者の復職支援では早期復職だけでなく、復職後に就労が継続できることも重要と考えられている(秋山、2018)。しかしながら、うつ病休職者の早期復職と就労継続に影響する要因について比較検討した研究は見られない。本研究では、本邦における早期復職および就労継続に影響する要因を抽出し、比較検討することを目的としたシステマティックレビューを行った。</p> <p><b>【方法】</b></p> <p>電子データベース(PubMed、J-STAGE 等)を用いて 2021 年 11 月までに刊行された論文を検索した。検索条件として「(return, to work " OR back to work") AND (depression OR depressive disorder)」AND Japan・」および「(復職 OR 職場復帰) AND うつ病」のキーワードを用いた。その結果合計 566 件の論文がヒットした。独立した 2 名がタイトル、アブストラクトおよび本文スクリーニングを行い、最終的に 22 件の論文が抽出された。</p> <p><b>【結果】</b></p> <p>早期復職の影響要因にはうつ症状、併存する不安、職場外の心理的ストレス、配偶者の余暇活動などが見られた。また、就労継続の影響要因には、就労の捉え方、仕事の要求度、認知機能の低下などが見られた。早期復職および就労継続に共通する要因としては、職場復帰支援制度、社会機能などが挙げられた。</p> <p><b>【考察】</b></p> <p>早期復職の要因としてうつ症状や精神状態に関する要因が検討されていたが、就労継続の要因としてはうつ症状や精神状態よりも、就労の捉え方や仕事の要求度など業務が遂行できるかに関わる要因が重要視されていることが示唆された。現在の復職支援では、精神状態が安定していることが復職の前提とされており(厚生労働省、2009)、復職後の症状や精神状態について評価が十分でない可能性がある。しかし、残遺症状である認知機能や社会機能の低下が再休職につながると示唆されていること</p>	

からも、残遺症状や社会機能まで十分な回復を評価した上で復職につなぐ必要がある。

※無断転載禁止